

# クラブインフォメーション



平成 22年8月

発行:(財)鳥取県体育協会 〒680-0944 鳥取市布勢 146-1

TEL:0857-28-1288 FAX:0857-28-1399 E-mail:tabuchi-h@sports-tottori.com

第 15号

## 第 1 回 鳥 取 県 ク ラ ブ マ ネ ジ ャ ー 研 修 会 を 開 催 し ま し た



松田 雅彦氏

平成 22 年 7 月 11 日 (日)、倉吉体育文化体育館に於いて平成 22 年度第 1 回鳥取県クラブマネジャー研修会を開催しました。

県内の 7 クラブと地域のスポーツ関係者合せて 14 名が参加し、講師に松田雅彦氏(大阪教育大学附属高等学校平野校舎教諭)をお招きし、「地域スポーツクラブとは」についてお話しいただきました。



### お話の内容として

地域スポーツクラブは「人と人」「人と社会」をつなげていく、地域づくりそのものである。

指導者目線ではなく、指導を受ける立場で物事を考える。(楽しくなければ次につながらない)

また、設立・発展しにくいクラブの例として、目的がはっきりしていない、スタッフの共通理解がないなどを挙げられました。

財源の確保・会費の設定方法として、県外クラブの事例を参考にしながら指定管理での設定の考え方を聞きました。

実際に会費の設定のシュミレーションをやってみましたが、黒字にするためには細かい所まで決めなくてはならぬ経営の難しさを知りました。



持田比佐子氏

事例研究では、持田 比佐子氏(NPO法人しんじ湖スポーツクラブ)から「クラブの取り組みについて」お話しいただきました。

“スポーツによって元気で笑顔いっぱい町づくり “の夢に向かってやってきた。

地域の声を聞きながら事業を進めてきたら、いつしか総合型地域スポーツクラブの基盤ができていった。(地域との信頼関係の構築)

クラブ運営から学んだこととして、失敗を恐れず振り返りや軌道修正をしながら、汗と知恵を出してそのことを喜びや生きがいに変える。そして、できることから一つずつやることがポイントだと話されました。さらに人と人がつながれば事業は発展していくと言及されました。

初心忘れるべからず!で“クラブの夢”に向かって地域住民の声に耳を傾け信頼関係を得ることの大切さを教えていただきました。

## 参加者の声

南部町社会福祉協議会: 板 真悟さん



松田さんの講義は総合型とは何かを改めて認識することができました。しんじ湖スポーツクラブのお話は、これからのクラブ設立における参考にさせていただきます。

打吹スポーツクラブ: 近藤美由紀さん



5 月にスタッフとして入ったばかりなので、今日の講義はとても良い勉強になりました。私も打吹スポーツクラブが地域住民の方に広く利用してもらえるように頑張りたいです。



## 全国スポーツ指導者連絡会議中国ブロック会議 in 鳥取で 打吹スポーツクラブに事例発表していただきました



発表中の高橋さん

7月8日（木）、米子ワシントンホテルにて、第1回全国スポーツ指導者連絡会議中国ブロック会議 in 鳥取が開催されました。

この会議は、(財)日本体育協会公認スポーツ指導者の連携と資質・指導力の向上を図り、地域での指導活動の促進方策などについて協議するもので、中国5県から幹事・代表ら23名が出席しました。

協議Ⅰのサブテーマ『総合型地域スポーツクラブと公認スポーツ指導者』で、打吹スポーツクラブ(以下打吹SC)の高橋義博事務局長に事例発表していただきました。

現在のクラブの会員数は125名で、対象地域5,000人に対して500人まで会員を増やすことを目標にしています。会員を増やしたい反面、少ない活動場所をどう工夫していくかが課題となっているようです。

打吹SCの指導者の現状は、公認指導者が5名(うち1名は取得中)、その他の有資格者が12名となっています。

有資格者が指導している教室もあれば、資格を所有しない経験者が指導している教室もあります。クラブの規程により指導者の謝金額が決められており、有資格者と無資格者では謝金の金額が異なります。**謝金を支払うことは、指導者にボランティアではなく対価への意識を持ってもらうことで指導の責任と安全に対する認識に繋がる**と高橋さんは強調されました。

これからの打吹SCは、住民、スタッフ、指導者が一体となった活動、クラブ以外での指導者の活用、指導者との情報の共有といった目標を掲げられていました。特に、指導者には指導だけではなく、クラブの運営委員会に出席いただき、総合型クラブを理解してもらう必要があるとお話されました。

発表後の質疑応答では、参加者からクラブの課題に対してのアドバイスがあるなど、クラブ側と指導者のよい情報交換・共有の場となったようでした。高橋さん、どうもありがとうございました。

### 指導者に関する課題

- \*資格取得の日程確保(仕事を休まなければならない)
- \*資格取得のメリット(クラブ以外で資格を活かせる?)
- \*資格取得してもそれを活かせる機会が少ない
- \*誰がどんな資格を持っているか分からない
- \*指導者の無償ボランティア化
- \*中学校のクラブ活動との連携が難しい

### 課題の解決に向けた取り組み

- \*総合型クラブを理解していただくこと
- \*HPでの情報発信、会報の発行・配布
- \*有資格者の発掘
- \*地域の方へ情報提供のお願い
- \*市の人材バンクの活用
- \*有資格者の資質向上(ボランティアではなく対価の意識を)
- \*指導者・会員の要望による講習会の開催

## 青谷スポーツクラブ\*地引網&鳴り砂クリーン大作戦

7月25日(日)、鳥取市青谷町の青谷海岸にて、「地引網&鳴り砂クリーン大作戦」が開催されました。

今回が2回目となるこのイベントは、青谷スポーツクラブと青谷町スポーツ少年団指導者協議会、鳥取市教育委員会青谷町分室が共催で開催したもので、朝6時という早朝の受付だったにもかかわらず、約150名の参加がありました。

会場の青谷海岸は日本でも有数の「鳴り砂」の浜で、砂の上を歩くとキュッキュッとよい音が鳴ります。きれいな砂であることが第一条件で、汚れてしまうと鳴らなくなってしまうそうです。このような貴重な地域の財産を守るため、砂浜の清掃活動も同時に行われました。



揚がった魚を入れる穴を掘っています。結構大変



お世話になった組合の方々



鳴り砂の海岸を皆できれいに

地元の漁業組合の方の協力・指導のもと、浜辺で二手に別れて網を中央へ引き寄せていきます。早朝にもかかわらず気温がかなり上がっていたので、途中で海に入る子どもたちもいました。

網を引き上げてみると、シロギス、アジ、コノシロ、タコ、オコゼなど100匹以上の魚が網に掛かっていました。子どもたちも見たことのない魚やタコを見て大興奮。

取れた魚は、皆で分けて持ち帰りました。

同じスポーツ少年団でも、普段はそれぞれの活動を行っており、横のつながりが希薄になっているのではないかと。年に1度でも団員が集まって交流することで、競技は違っても同じ少年団の仲間だと感じてもらえたら、と長谷川クラブマネジャーはお話されました。

また、普段は身近すぎて気が付かなかった地域のすばらしさに触れ、自然を大切にする心が育まれたイベントになったのではないのでしょうか。

夏休みの素敵な思い出になったと思います。みなさん、朝早くからお疲れさまでした。



寄せて寄せて



はい、引っ張ってー



あ!獲れてる!



みんなで仲良く分け合いました



## 第37回日独スポーツ少年団同時交流ドイツ団受入 ラフティング体験にD oスポーツにご協力いただきました



ドイツ語の横断幕で歓迎



景山町長より Willkommen! (ようこそ)



しゅっぱーつ



Denk bitte an uns!

7月26日(月)、第37回日独スポーツ少年団同時交流ドイツ団受入のプログラムの一つである『総合型クラブとの交流』で、D oスポーツ(日野町)のラフティング体験を行いました。

午前9時過ぎに会場である「リバーサイドひの」に到着すると、D oスポーツのスタッフをはじめ、景山享弘日野町長、山本武史教育長など多くの方の歓迎を受けました。

連日の晴天で水量が気になっていましたが、前日山に雨が降ったそうで、川にはたっぷりの水が流れていました。

景山町長さんの歓迎の挨拶と記念品の贈呈が行われ、いよいよ川に向かって出発。ラフティングは楽しいスポーツですが、一歩間違えれば命に関わる事故と背中合わせでもあります。通訳さんを介して、注意事項をしっかりと説明されました。

いよいよ川くだりスタート。この日も35度近くまで気温が上がっており、川に投げ出された団員たちは悲鳴をあげながらも気持ちよさそうでした。もともと盛り上げ上手なスタッフとも、片言の英語、ジェスチャー、あとは心意気で、言葉は通じなくてもすぐ打ち解けていたようです。

時間の関係で少し短めのコースでしたが、お約束のボート落下、岩壁からのダイブなど、たくさんのお楽しみを織り交ぜてください、団員も大はしゃぎでした。

団員たちはラフティングの経験は今回が初めてだったようで、大変印象深く心に残ったと喜んでいました。初めての日本で、素敵な思い出となったようです。

D oスポーツさんも、外国からのお客さんは今回が初めてだったそうです。これを機に、日野町のラフティングをさらにPRしていきたいとお話されました。平日にもかかわらずご協力いただきましたクラブのみなさん、その他関係者の方々、どうもありがとうございます。



気分は最高



離さないでね!



通訳さんも決意のダイブ



## ウルトラC&Sクラブ\*第1回ウルトラビーチサッカー大会



7月31日(土)、ウルトラC&Sクラブ主催の第1回ウルトラビーチサッカー大会が弓ヶ浜ビーチで開催されました。

ロシアから3チーム、アミーゴ5チーム(ウルトラC&Sクラブチーム)、地元から10チームの計18チームの選手140名で行われました。

この大会は、サッカーの盛んなロシアと交流をしたいという境港市生涯学習課と、ウルトラC&Sクラブの思いが合致して実現した企画だそうです。

試合は4グループに分かれての予選リーグの後、決勝トーナメントが行われました。

ロシアにはビーチサッカーがないそうなので、試合の合間に海水浴をしたり、バーベキューを食べたりと楽しく過ごせたようでした。

試合結果は、優勝はロシアチームでしたが、2位はアミーゴチームで大健闘でした。

《ウルトラC&Sクラブのクラブマネージャー 拝藤 均さんのコメント》

今度はロシアに行ってもいいし、韓国とか他の国とも交流をしたい。いい機会を与えてもらった。

暑い中、選手の皆さん、スタッフの方々ご苦労さまでした。これをきっかけにたくさんの国と交流ができればいいですね。

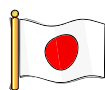


ロシア  
代表から一言



コレソフ・セルゲイ君 (15歳)

日本は素晴らしい国。温かく迎えていただいていた。日本のサッカーのレベルは高いと思いました。今日はとてもいい体験になりました。



日本代表から  
一言



西村 文武君 (15歳)

今回交流してみて、まず体格の違い、ロシアチームの足さばき等の技術の高さを感じました。外国のチームと試合できてよかったです。

